

# お客さまと有機的につながる 「HOME」感を目指し、リニューアルで進化

エキュート立川



大屋根をイメージした梁と天井のデザイン  
ナチュラルな木のボリューム感が館の中心にある「森の市場」を想起させる



交差する梁がリズムを造りランダムに張られた天井は  
ゾーニングと連動し回遊性を高める



木材を使ったすがすがしさと木の色を引き立てる  
シンプルな素材の組み合わせで売場環境を演出



木の疑似梁意匠をコンコースにも張り出すことで一体感のある空間を創出

## 開業から16年にして 初の大規模リニューアル

「駅構内開発小売業」という当時の新しいビジネスモデルとして、大宮、品川に続いて2007年に開業したエキュート立川。それから16年、老朽設備の取り替えに端を発し、2階改札外エリアの食物販ゾーンを全面的に改装することになった。

立川周辺を生活圏とする30～40代女性、40～60代男女をターゲットに掲げたスペースデザインコンセプトは「森の市場」。最寄り駅に対するホッとする空気感を、木材や木の色を引き立てる素材で表現するとともに、「おいしいものを買って帰ろう」という食欲をかきたてる灯りで彩りを添えるリニューアルを実現した。

## 温もりのある素材と灯りの演出

目を引くのは、大屋根をイメージした特徴的な梁と天井のデザイン。交差する梁がつくり出すリズム感を、トップライトからの自然光とダウンライトによってさりげなく引き立てている。

照明は、時間帯や季節で調光調色が自在にできるシステムを導入。自然な光の変化で居心地の良さをつくり出しながら、ピックアップ効果の高い照明で商品の視認性を高めることで回遊を促し、買い物を楽しくめる売り場とした。

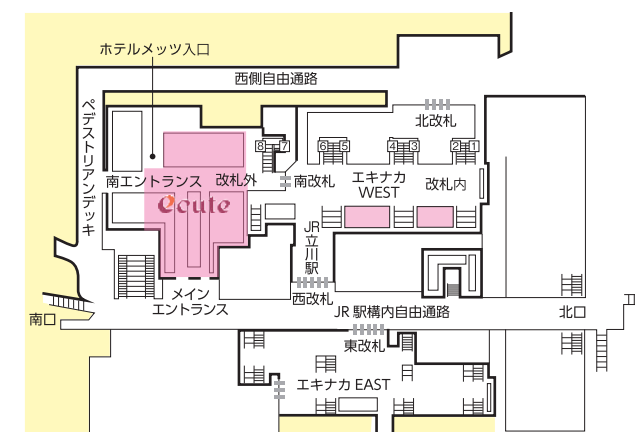
## 経験知によりイレギュラーにも対処

今回のリニューアルでは従来のB工事を、店舗運営者の財産とするB1工事と、ショッ

プ財産とするB2工事とに分ける新たな工事区分とした。これによりB2の負担が軽減され、店舗の入れ替えが容易になることを目的としていたが、新たな工事区分であり、設計および工程調整が非常に複雑となった。

新築工事とは異なりリニューアル工事は既存との調整が重要となる。特にエキナカ店舗は鉄道施設と取り合いが多く、工事区分・財産区分を明確にする必要がある。また、今回の工事では工事エリア内に営業通路と避難通路を確保することが求められ、施工ステップや工程調整の難易度が高かった。

そうした問題に直面し、たとえ当時の資料が完全でなくても、想定して調整しながら設計・工事を完結できる、経験知による技術力が必要なプロジェクトだった。



## エキュート立川

所在地	東京都立川市	開業	2024年8月
用途	商業施設	〈担当〉	
発注者	JR東日本クロスステーション	統括	太田由美子
施工	東急リニューアル	建築担当	五十嵐美穂、福井卓記
敷地面積	14,983.71㎡	構造	菊池大
建築面積	5,320.40㎡	設備	土城峻、桑田駿平
延べ面積	16,939.39㎡	電気	萱原明彦
改修面積	1,060.27㎡	工事監理	太田由美子、金谷理弘、土城峻、吉田要、桑田駿平、萱原明彦、山崎稔喜
階数	地上13階、地下1階		
構造	S造 一部SRC造		

## PROJECTS エキュート立川

当社HPでも同物件のご紹介をしております。ぜひ、ご覧ください。

